資　　料

新型コロナウイルス感染拡大下の在宅支援論実習
―遠隔実習の試み―

和田　惠美子*・武田　未央*・内貴　千里*

要旨

【目的】2020 年度の在宅支援論実習の遠隔実習の内容を可視化し、学生への学習効果を検討し、次年度の実習につなげる。【方法】2020 年度の在宅支援論実習の内容を実習要項の目標に沿って、スケジュールを通して可視化し、実習の振り返りから学生の学びを明らかにする。実習内容についての検討は、学生の在宅支援論実習事後アンケートの集計と実習施設先の実習指導者の実習への意見より行う。【結果】実習内容は、学生は１名の療養者のケースを看護過程しつつ、遠隔を中心とした実習指導者（訪問看護師、ケアマネジャー、通所サービス看護師など）の web カンファレンス、多職種（在宅医師、薬剤師、在宅歯科医師）による web 講義を中心とするものであった。学生のアンケート（無記名）結果より、web カンファレンスや web 講義の学習効果は高かった。学生の在宅実習への興味・関心が実習前にはばらつきがあったが、実習後には高値へと変化していた。【結論】学生は、web カンファレンスで実習指導者、学生間、教員との交流が上手く図れたことで、実習目標は達成できたと考えられる。次年度は施設の受け入れ状況に応じて、学生が実習現場に赴けるようハードルをあげていきたい。

Key Words：新型コロナウイルス感染、遠隔実習、在宅看護

Ⅰ．序論

新型コロナウイルス感染症は 2019 年 12 月に中国で発生すると、一気に世界中で広まり、我が国でも豪華客船でのクラスター発生を機会として国内でも瞬く間に広まった（岩本 ,2020）。本校の在宅実習は、通常通りの訪問看護ステーションから利用者宅の見学実習は困難であるが、訪問看護ステーションまでは学生が出向く予定であった。訪問看護ステーション内で、学生は受け持ち患者を担当し、その患者の看護過程の展開を実施する方向で施設とも実習にむけての交渉を進めていた。しかし、実習の最終調整の時期である７月末に感染拡大の第二波がピークとなり、東京都では、20 代の割合が 43％（東京都オープンデータ，2020）と高値を示し、無症候性感染者が多数であることが示された。

本校の在宅支援論実習の実習施設先は、訪問看護ステーションをはじめとして、通所介護施設、小規模多機能施設、居宅介護支援事業所といった地域に密着した規模の小さな施設が大半を占めていた。認知症の利用者の方も多く、マスク着用も難しく、20 代の学生との接触は感染

*京都看護大学

の危険性が非常に高く、施設への入室は困難な状況があった。さらに、実習期間は、施設の学生への受け入れ可能人数が２～４名と少数なこともあり、８月中旬から２月末まで長期にわたっていた。実習施設先でのクラスター発生の危険性を考えると、訪問看護ステーション及び利用者の方々、地域への迷惑を鑑みて、訪問看護ステーションへの学生の訪室も断念することとした。そして、コロナウイルスの感染拡大が懸念される中でのリスクを避けることを目的とし、京都看護大学のガイドラインを踏まえ、文部科学省の推奨するインターネット等を活用した学修を主にした実習の実施へと切り替えた。

2021 年１月３日現在、新型コロナウイルス感染症の国内での感染者数 24 万 2205 人（＋ 3060）であり、首都圏では 12 月 31 日は過去最多の感染者数が確認され、４都県が緊急事態宣言を要請している現状である（朝日新聞，2021）。在宅支援論実習におけるリモート実習の取り組みの結果を本研究において報告し、次年度に向けて検討していくことは重要である。

Ⅱ．目的

2020 年度の在宅支援論実習のリモート実習の内容を可視化し、学生への学習効果を検討し、次年度の実習につなげる。

Ⅲ．方法

2020 年度の在宅支援論実習の内容を実習要項の目標に沿って、スケジュールを通して可視化し、実習の振り返りから学生の学びを明らかにする。実習内容についての検討は、学生の在宅支援論実習事後アンケートの集計と実習施設先の実習指導者の実習への意見より行う。

Ⅳ．倫理的配慮

実習対象施設については、施設名が特定されないよう匿名化とし、A 施設、B 訪問看護ステーションと表現する。学生の在宅支援論実習事後アンケートは無記名で実施した。

Ⅴ．結果

1．本年度の実習内容

本年度の実習は、本学が利用する Cisco Webex Meetings を活用してリモート実習を行った。実習スケジュールは表１に示すように、①ペーパーペイシェントの患者１名の看護過程の展開の実践、② DVD の視聴（訪問看護師の DVD と通所施設の撮影動画）、③ web 講義（初回のクールの場面を録画し、以後録画講義）、④実習指導者との web カンファレンス、⑤実習施設メンバー（2～４名）によるグループワーク、⑥実習施設メンバーの合流（6～８名）カンファレンス、⑦個人ワーク、⑧教員の個別指導の８項目の内容を実施した。

1）ペーパーペイシェントの事例（患者１名）の看護過程の展開の実践

事例を１ケース受け持つ目的は、療養者と家族の療養生活をアセスメントし、在宅生活を維持するための看護課題を抽出し、看護実践につなげることである。

学生は、訪問看護ステーションの訪問看護師の助言や指導により、自らが考えた看護実践を修正することで、在宅看護の理解を深めることとなる。在宅看護は療養者の身体面と生活を支援する両側面を持っている。療養者の生活を地域でケアマネジメントしていく役割をもつのが、居宅介護支援事業所のケアマネジャーであり、療養者や家族の生活で、QOL の維持や向上を支援しているのが、通所介護の役割である。学生

は事例を通じて、これらの事業所の役割や専門性を学習することが在宅看護では必須となる。

事例は、事前に5事例を準備し、その中から訪問看護の関わりの多いケースである2事例（Aさん、Eさん）を使用することとした。学生は実習初日に、2事例（Aさん、Eさん）を決定した。事例を決める際には、AさんとEさんのどちらの事例も学習できるように、実習施設メンバー間で、事例に対して、学生の人数が均等となるように事例を選ぶように配慮した。

Aさんは、パーキンソン病の81歳の男性で、右大腿骨頸部骨折により、人工骨頭置換術を受けて、要介護3の認定を受けて退院した。79歳の妻は関節リウマチを患っている要支援1の認定を受けている。夫婦二人暮らしである。

Eさんは、アルツハイマー型認知症と診断された76歳の女性で、要介護2の認定を受けて、48歳の会社員の長男との二人暮らしである。夫は3年前に他界し、その頃より認知症が進行している。

事例のAさん・Eさんの生活を支える支援として、通所サービスを如何に活用すればよいのか、ケアマネジメントや社会資源の活用方法、さらに看護計画についての質問を学生ができるように、2週目に通所施設・居宅介護支援事業所・訪問看護ステーションの実習指導者とのwebカンファレンスを設定した。

したがって、学生が事例Aさん・Eさんの看護過程の実践については、初日のオリエンテーションで以下のことを説明した。

(1) 進行状況について

2週目の月曜日の午後には、翌日の居宅介護支援事業所のwebカンファレンスの資料として、ケアマネジャーに対しての質問事項の内容を学生に提出するように説明した。事例のAさん・Eさんの内容を質問事項にまとめるためには、実習施設メンバー（2～4名）によるグループワークで、自らが担当する事例についてのアセスメントや看護課題の抽出内容について説明をし、互いに理解しあうことが求められる。そのためには、2週目の月曜日の朝までには、看護過程の展開をほぼ完成させる（看護課題の抽出までは）必要があることを説明した。さらに、実習指導者とのwebカンファレンスでは、初対面の指導者に対して、学生が主体となり、司会を進行するので、グループメンバー間での協力体制が求められることも説明に加えた。

(2) 療養者（当事者）の思いについて

通常の実習であれば、学生は訪問看護師に同伴し、受け持ちの療養者宅の訪問に2回は行くことができていた。そこで、療養者や家族と直接話をすることができるとともに、療養者の身体状況や療養生活の様子については、五感を通じて感じることができていた。しかし、ペーパーペイシェントの事例では、その臨場感を体験することができない。そこで、学生が事例のAさん・Eさんをイメージできるように、パーキンソン病もしくは、アルツハイマー型認知症の当事者の思いについて調べ、記録用紙にまとめることを課題とした。方法については、当事者の手記やSNSでの発言を自ら探すようにと提示した。この当事者の思いを理解して看護過程を進めることが重要であるため、1週目の早い段階で調べるように、オリエンテーションで説明した。さらに、学生の当事者の思いへの理解を深めるために、実習施設メンバーの合流（6～8名）カンファレンスで意見交換を行った。

2）DVDの視聴（訪問看護師のDVDと通所施設の撮影動画）

DVDの視聴では、実際に行われている看護実践を見学することを目的に、療養者の疾患と本人と家族の生活の両側面がわかる訪問看護師の看護場面を収録した内容を選んだ。視聴前には、

表１　実習スケジュール

	1．火曜日	2．水曜日	3．木曜日	4．金曜日
AM	オリエンテーション 実習要綱（予定、記録などについて、目標など）	DVD視聴 （小児の事例の訪問看護） 視聴後のカンファレンス	往診歯科医師web講義 （録画）	個別指導
	休憩	休憩	休憩	
	・DVD視聴　30分 ・事例決定 ・午後から視聴するDVD説明と目標設定	往診医師web 講義（録画）	カンファレンス （多職種連携における訪問看護師の役割）	カンファレンス （事例について）
	休憩	休憩	午後休み	午後休み
PM	DVD視聴 (脳梗塞の事例の訪問看護) 視聴後のカンファレンス	事例について個人ワーク		
	事例について個人ワーク			
	カンファレンス (療養生活や思いについて) 翌日視聴するDVD説明	カンファレンス （訪問看護師の役割）		
	終了	終了		

	5．月曜日	6．火曜日	7．木曜日	8．金曜日
AM	カンファレンス (当事者の思いについて)	通所サービスの録画視聴	DVD視聴 (肺疾患老々介護の事例) 視聴後のカンファレンス	まとめ　面談 個人ワーク
	休憩	休憩	休憩	
	グループワーク（居宅支援事業所への質問事項）	午後からのweb カンファレンスに向けてグループワーク	グループワーク（訪問看護師への質問事項）	
	休憩	休憩	休憩	休憩
PM	事例について個人ワーク	通所サービス事業所とのwebカンファレンス	webカンファレンスに向けてのグループワーク	個人ワーク
	薬剤師とのwebカンファレンス	居宅介護支援事業所とのwebカンファレンス	訪問看護ステーションwebカンファレンス	放課後等デイサービスごっこ（webお話会）
	グループワーク（webカンファレンスの振り返り）	グループワーク（webカンファレンスの振り返り） 翌日視聴するDVD説明	グループワーク（webカンファレンスの振り返り）	個人ワーク
	終了	終了	終了	終了

学生に事前学習を促すことと、視聴の視点の目標を定めるようにDVDの内容の説明を行った。DVD視聴後には、実習施設メンバー合流カンファレンスで、意見交換を行った。

通所施設サービスについては、従来の見学実習に変えて、デイケアやデイサービスの場面の撮影動画（許可をいただいた施設）やYouTubeの動画（三浦市社会福祉協議会，2013）の視聴を行った。学生は動画視聴の後、学生間のwebカンファレンスで、通所サービスの実習指導者に向けた質問事項について話し合い、通所サービス事業所とのwebカンファレンスに備えた。

3）web 講義（初回のクールの場面を録画し、以後録画講義）

在宅療養を支えている地域包括ケアシステムについて、なかでも、多職種連携における訪問看護師の役割を理解する目的で、web 講義を行った。学生は在宅医師や在宅歯科医師といった職種とは、通常の実習では十分に話す機会がない。そこで、今回の実習では、「在宅医師が在宅医療の現場で訪問看護師に求めていること、在宅歯科医師は在宅の現場で利用者にどのように関わっているのか」といった多職種連携の理解を深める講義内容と、1 クール目の学生からの医師への質疑応答場面を録画した内容を活用した。web 講義（90 分）の視聴の後には、学生間の web カンファレンスで意見交換を行った。

4）実習指導者との web カンファレンス

（1）薬剤師との web カンファレンス

在宅における多職種連携の実情と他職種の視点の違いを学生の段階から気づくことを目的に薬剤師との講義とカンファレンスを行った。薬剤師の在宅の現場の web 講義（60 分）を薬剤師から受け、学生は薬剤師への質疑応答（30 分）を中心にカンファレンスをした。薬剤師には、学生が実施しているペーパーペイシェントの事例を事前に共有し、学生は受け持ち事例についても質問できる機会とした。薬剤師の学生が実習中の際は、看護の学生の事例を薬学部の学生とも共有して、カンファレンスを通じて、事例についての意見交換を行った。薬剤師の web 講義と薬剤師もしくは、薬学部の学生の web カンファレンスの後には、学生間の web カンファレンスの意見交換を行った。

（2）通所サービスとの web カンファレンス

療養者と家族が地域で生活するための支えとなる通所サービスの実情の事業所の特徴とその取り組み、介護と看護の連携を理解する目的で、通所サービスの指導者（訪問看護師）との web カンファレンスを実施した。学生は事前に、デイケアやデイサービスの場面の撮影動画（許可をいただいた施設）や YouTube の動画の視聴を行い、実習指導者への質問事項を準備してカンファレンスに参加していた。学生が主体となり、司会と書記を務めて進行を行った。

（3）居宅介護支援事業所の web カンファレンス

在宅療養を支えている、地域包括ケアシステムのケアマネジャーの役割と、介護保険制度に基づくケアマネジメントの実際、社会資源の活用方法を学ぶことを目的に居宅介護支援事業所の web カンファレンス（90 分）を実施した。学生は、事前に各自の事例の看護過程の展開について話し合い、意見を出し合った上で、事例を通じた質問事項、ケアマネジャーの業務に関する質問事項、社会資源の活用方法に関する質問事項を担当教員に提出していた。実習指導者には、事前にペーパーペイシェントの事例内容と学生からの質問事項をカンファレンス前に確認済みのもと、学生主体でのカンファレンスを実施した。

（4）訪問看護ステーションとの web カンファレンス

療養者と家族が地域で生活するための看護の必要性と、地域包括ケアシステムにおける訪問看護ステーションの役割を学ぶことを目的に訪問看護ステーションの指導者との web カンファレンス（60 分）を実施した。学生は概ね 2 週間の学びを発表し、意見交換を行った。次に、事例 A さん・E さんのアセスメント、看護課題の抽出内容を説明し、看護実践の具体的な方法について訪問看護師に質問をした。訪問看護師からは、「パーキンソン病の A さん、アルツハイマー型認知症の E さんは、身近にあるケースであるので、私だったら、....」といったような

具体的な説明があった。

(5) 学生の実習態度について

web 上での実習態度として、画面の正面に座り、身だしなみを整えることをオリエンテーションで説明し、その場で修正を求めた。実習施設先との web カンファレンスでは、実習施設先の療養者や家族、施設の情報が提供されるため、個人情報に関する誓約書の氏名の欄を画面上に示し、自己紹介を行った。

また、実習施設先との web カンファレンスは学生が主体となって進行を務めるため、グループ間での協力体制が活かせるように、グループワークの時間を学生の求めに応じて十分にとった。

2. 学生への実習後アンケート結果（無記名）全 20 問

現在実習の進行途上であり、在宅支援論実習の終了した者は 60 名（84 名が履修予定）である。そのうち、アンケートの回答者は 42 名であった。

1）グループ間の学びについての質問の回答

択一問題の回答は、非常にそう思う；57%、そう思う；40%、どちらともいえない；2%、そう思わない；0%、非常にそう思わないは 0% であった。

学生の自由記載では、「互いに意見を伝え、発言を補いあい、話し合いの場で共有できた」「自分の意見との違いから大事なところが明確になった」「初めは、誰かが発言するまで進まなかったが、徐々にメンバー全員が自分から発言できるようになったから」「意見交換が効率的に行えた」「みんなで協力して役割を遂行した」「事例についての情報共有ができ、事例について深めることができた」といった意見があった。

2）web カンファレンスで実習指導者（通所サービス、居宅ケアマネジャー、訪問看護師）の効果についての質問の回答

択一問題の回答は、非常にそう思う；60%、そう思う；40%、どちらともいえない；0%、そう思わない；0%、非常にそう思わないは 0% であった。

学生の自由記載では、「一つの質問に対して、具体的に丁寧に答えていただき、看護展開をしていく中で活用できる助言をもらえた」「実際に療養者とどのような関わりをされているのか、看護師としての役割を具体的に学ぶことができた」「自分たちの経験を踏まえた具体的な関わり方の提案をしてくださり、どういうときにサービスを利用すべきなのかを理解することができた」「実際に訪問看護ステーションに行くことができなかったが、カンファレンスを通して具体的に在宅看護について考えることができた」といった意見があった。

3）多職種（在宅医師、歯科医師、薬剤師）の web 講義、または薬剤師（薬学部の学生）とのカンファレンスの効果についての質問

択一問題の回答は、非常にそう思う；57%、そう思う；43%、どちらともいえない；0%、そう思わない；0%、非常にそう思わないは 0% であった。

学生の自由記載では、「看護師の立場からだけでなく他職種の意見を聞くことで、どのような情報が必要なのか、そのために看護として何を観察し共有せねばならないのかが明確になった」「薬剤師、医師、歯科医師からの看護師の役割を聞くことができてよかった」「看護師とは違う視点、看護師に対する印象などが知れた」「普段の講義ではあまり知らなかった、多職種の役割について知ることができ、地域でどのように活動しているのかがわかった」「遠隔だったからこそ多くの職種から学ぶことができ、知りたいと思ったことも聞くことが出来て、より職種の役割のイメージが着きやすかったように感じる」「多職種連携の大切さや、各職種の役割や課題を明確

化することが出来た」「普段聞けないようなことを聞け、質疑応答の時間がり、新たな気づきがあったので良い機会でした」「病院実習でも学ぶことができないことを教えていただけて、とても貴重な講義だった」といいった多数の意見があった。

4）教員のアドバイスや指導は適切であったかという質問の回答

択一問題の回答は、非常にそう思う；48%、そう思う；48%、どちらともいえない；8%、そう思わない；0%、非常にそう思わないは 0% であった。

学生の自由記載では、「メールのやり取りだけでなく、個人面談の時間があり、わからないことを聞きやすかった」「助言を求めればともに考えてくださり、こちらの疑問を投げっぱなしにされることがなかった」「学生の考えを否定せずに丁寧に聞いてもらえた」「個別指導をしてもらうことができ、自己の課題点を考えあげることができた」「自分から質問することができたのと、アドバイスにより考えを深めるためことができた」といった意見があった。

5）実習の満足度の質問の回答

択一問題の回答は、非常にそう思う；43%、そう思う；52%、どちらともいえない；0%、そう思わない；2%、非常にそう思わないは 2% であった。

学生の自由記載では、「音声が聞こえにくかったり、画面の共有ができなかったりのハプニングがありスムーズにいかないこともあったが、学生間でも他の職種の方との間でも意見を交換することができ視野を広げて、事例について深めることができた」「一つの事例を深く考えられ、様々な職種の方と話すことで学べる貴重な機会が得られた」「実際に訪問したりして療養者と関わることは出来なかったが、そのかわりに様々な職種の方の話を聞くことが出来たため、それぞれについてよく学ぶことが出来た」「毎日新たな学びがあり、実習を通して在宅に対する興味・関心がかなり深まった」「カンファレンスなど多くの場面で自分の意見を発表することができた」「自分の考えを肯定的に聞いてもらい、自由に発言できる雰囲気で意欲が湧きやすかった」「質問しやすい環境で、多くの職種の方と関わることができた」「実際の現場の状況を教えていただけて興味を持って講義やカンファレンスに参加できた」「訪問看護師やケアマネ、薬剤師など現場の声を実際に聞くことで、授業ではイメージしにくかった在宅療養で必要なことや多職種連携の重要性が学べた」「在宅看護の楽しさを先生や関係職種の方との交流を通して知ることが出来た」といった意見が多数あった。

しかし、択一問題で「そう思わない」「非常にそう思わない」と答えた学生が各 1 名であった。自由記載では、「録画されていたものを見ていたので、実際の先生と Web での講義が良かった気がする」「在宅医師の講義について、ただ話を聞いているだけという感じが強かった」「質問されたことがよくわからず、意見できなかった」「実際に療養者さんをみることができなかった」といった意見があった。

ただ、学生の在宅看護への興味・関心は、実習の前と後では大きく変化した。実習前の択一問題の回答は、非常に高い；5%、どちらかといえば高い；40%、どちらともいえない；31%、どちらかといえば低い；33%、非常に低いは 0% であった。実習後は、非常に高い；14%、どちらかといえば高い；71%、どちらともいえない；25%、どちらかといえば低い；5%、非常に低いは 0% となった。

3. 実習を終えた実習指導者の意見

1）訪問看護師（事業所所長・実習指導者）の意見

「web カンファレンスについては、楽しい内容であったが、在宅での訪問看護師の役割や利用

者の立場が学生に伝わっているかが明確でない」「カンファレンスの人数が4名であったことが充実できた要因であるかもしれない」

「学生のグループによって方向性が違っていた」「実際を知らず、webカンファレンスだけで残念だった」「実習の要項から離れた質問で答えに困った」といった意見があった。

2）通所施設のデイケアの看護師や介護福祉士、施設長の意見

「実習がどのようになるか想像がつかなかったが、DVD視聴は良い作品となった。質問内容が療養者の生活面に着目されるようになり、学生の成長が見えた。

カンファレンスによって考えを深められていた」といった意見があった。

「視聴してもらったDVDは学生の共有の学習教材となるので良いと思う」「録画したDVDとカンファレンスの質問で、伝えられることは伝えたが、療養者との関りからの学びは今後知ってもらうしかない」といった意見があった。

次年度に向けて、「施設の前まででも来ることができれば、撮影したDVDは実習に来る前に視聴して、予習学習にしてもらいたい」といった要望があった。

3）居宅介護支援事業所のケアマネジャー

「学生によって事例のアセスメントが異なり、質問内容も違い、個別性がありよかったと思う」「実習の振り返りから、ケアマネジャーが事例の療養者へのサービスの選択の方法やケアマネジメントについて説明することで、学生は看護計画に繋げられていることがわかった」といった意見があった。

「学生から気づかされることも多くあるため、学生の意見は他のケアマネジャーにも伝えるようにしている」「90分で介護保険サービスにおけるケアマネジャーの役割と学生の質問に対応することには、準備が求められた。学生の質問に対しては、ケアマネジャーとしての意見として適正であるかを他のケアマネジャーに確認するようにした」といった意見があった。

Ⅵ．考察

本年度の実習は在宅看護の現場に行くことができず、学生は自宅からリモートを通じての実習となった。しかし、学生のアンケートの結果から、学生の実習への満足度は高く、遠隔だからこそ、多職種と関わりが持て、一つの事例をじっくり深めることができたといった意見が多数あった。また、DVD視聴の後、web講義の後、webカンファレンスの前にグループ間でのカンファレンスの時間を必ず設定したことは、学生の発言への慣れ、発言したことによる学びの広がりの体験につながったと考えられる。

通常が当然のことではないことを体験し、それでは、「通常では体験できないことをやってみよう」という発想で、在宅医師、歯科医師、薬剤師の講義やカンファレンスの機会をもつこととした。また、通常、療養者との関わりを基本とする援助の在り方を指導していただいている実習指導者に、webカンファレンスだからこそ、学生が主体となって実施するカンファレンスに寄り添ってもらうようにお願いした。実習指導者は学生の質問に準備をいただき、発言に丁寧に、具体的に答えていただいたことで、学生は緊張しながらも、同じ視点で話ができ、達成感を得ていた。カンファレンスの終了後に「グループメンバーにいつも助けられてばかりで…」と表情を曇らせる学生も中にはいた。しかし、その事実に気づけたことも学びの一つではないかと考える。気づきは学びの一歩である。

実習指導者の発言に「新型コロナウイルス感染症によって、立ち止まって考える機会になった」というものがあった。看護教育の現場も同

様のことと言える。立ち止まって考え、この状況で方策を模索していくことが重要である。今回の実習で、録画された在宅医師のDVDに残念さを漏らす学生、実際に療養者と関われなかったことを悔やむ学生もいる。新型コロナウイルス感染症の状況は地域によって異なり、多様な予防策のメニューを地域の実情に応じて柔軟に取っていく必要がある（平野ら，2020）と述べている。次年度に関しても、地域や施設の状況に応じた実習方法が求められる。次年度は少しでも実習現場に赴けるよう調整を進めていきたい。

Ⅶ．結論

本年度の遠隔での実習は、個人ワークの時間に事例についてのアセスメントを進める事ができたこと、web講義、webカンファレンスを通じて、多職種と関わりが持てたことで、一つの事例をじっくり深めることができていた。また、DVD視聴、web講義の後、webカンファレンスの前後にグループ間でのカンファレンスの時間を必ず設定したことは、学生の発言への慣れ、学生相互の意見交換による学びの広がりの体験となっていた。このコロナ禍で学び得た多職種との関わりの重要性や事例を深める学びは、次年度の実習でも継続し、さらなる教育効果を検討していくことが求められる。

次年度の取り組みとしては、学生が短時間であっても、訪問看護ステーションや実習施設先まで出向くことを調整している。学生は訪問看護ステーションでオリエンテーションを受け、実習指導者より看護技術の工夫や物品の工夫などを伝えていただくことで、知識を実践に繋げることができる。さらに、学生は訪問看護ステーションの療養者の事例を受け持たせていただくことで、事例についての情報をカルテから収集し、整理する体験ができる。また、学生は通所サービスの施設内に入ることはできなくとも、施設の周辺を地区踏査することで、療養者が暮らす地域性や環境を理解できると考えている。

謝辞

学生の発言に真摯に向き合っていただいた実習指導者の方に心より感謝いたします。

利益相反

本論文の内容に関する利益相反事項はありません。

文献

平野有希子 , 江啓発 , 平川仁尚 .（2020）. 新型コロナウイルス感染症拡大下のヘルスケアシステム－浮き彫りになった課題－ . 日本在宅ケア学会誌 , 24（1）, 37-43.

岩本大希 .（2020）. 訪問看護ステーションにおける新型コロナウイルス感染症（COVID-19）への対応と取り組み . 日本在宅ケア学会誌 , 24（1）, 29-36.

三浦市社会福祉協議会 . 高齢者デイサービスの1日 2013 年 1 月 24 日 . https://www.youtube.com/watch?v=Z1GccxSDaTw.（閲覧日：2020年11月24日）

文部科学省高等教育局医学教育課 事務連絡　令和2年6月23日 . https://www.mext.go.jp/content/20200624-mxt_kouhou01-000004520_1.pdf.（閲覧日：2020年7月15日）

東京都感染者データ . https://www3.nhk.or.jp/news/special/coronavirus/by-age-tokyo/.（閲覧日：2021年1月3日）